

2021 年度 高等学院同窓会学術研究奨励金
研究成果報告書概要 (WEB 公開用)高等学院長
高等学院同窓会理事長 殿

研究代表者氏名 [本間 義隆]

学年・組・番号 [2年 4組 22番]

研究課題: 浮世絵からみる江戸の四季と庶民生活

(英文) Life of Edo Commoners with joy of four seasons drawn in UKIYO-E

研究概要:

(研究課題を選んだ動機、達成するための計画・目的・方法等について 200~400 字で記入してください)

江戸時代の人びとは二十四節気とよばれる現在よりも細分化された季節を生き、その心で感じた事を浮世絵という表現ツールを使って描いた。本研究は、浮世絵をもとに江戸の庶民が守り継いできた伝統の風習について調べ、江戸庶民の生活への理解を深めることを目標に考察を行ってきた。例えば、有名な浮世絵葛飾北斎の『神奈川沖浪裏』に描かれた船は、江戸庶民の生活に深くかかわるものを運んでいる絵だということはあまり知られていない。その荷物とは、ちょうど今の季節、初夏に水揚げされる初鰹である。江戸っ子たちは初物を食べると寿命が 75 日延びるとし、「勝男」とも書いて縁起のよい初鰹はさらに寿命が 750 日延びるとしていた。江戸っ子たちはこの初鰹を食べることを心待ちにしていたのだ。この浮世絵に描かれている、主に魚介類を高速で魚河岸まで運ぶ船を押送船という。当時の川柳に「初鰹 むかでのような船に乗り」という句があり、このムカデとは速力を重視し櫓が多い押送船の事である。このように浮世絵からは、江戸庶民の生活について多くを知ることができる。本研究を通じて、そのことをあらためて確認することができた。

研究成果:

(研究の結果概要、結果に対するフィードバックや感想等について 200~400 字で記入してください)

本研究では、江戸時代に庶民などから大変人気があった浮世絵について注目し、浮世絵に描かれている庶民が受け継いできた伝統文化を学び、それをもとに江戸時代の庶民の文化について理解を深める事を目標とし、僕と本間君で奨励金を利用し研究した。今回は、コロナ禍という事もあり、あまり二人で実地調査を行う事ができなかった。

二人で見学させていただいた施設は、すみだ北斎美術館と深川江戸資料館の二つだ。すみだ北斎美術館では、葛飾北斎の生涯や、その作品などを大変わかりやすく展示しており、とても研究に役立つとともに、浮世絵について改めて理解が深まった。深川江戸資料館では、江戸時代末の深川の街並みが再現されていた。また、当時の庶民の暮らしや家の様子なども細やかに展示されていた。更に街並みだけでなく浮世絵の擦り方も展示されていた。

浮世絵が映している庶民の暮らしや文化について、これまでより理解を深める事ができた。これからもさらに現地調査などを行い、このことを調べていきたい。

研究者: (以下の、代表者・分担者は学年・組・氏名を明記する)

研究代表者 本間 義隆

研究分担者 山田 拓海

担当教諭 松澤 徹

(受給額: 25,000 円)

※研究課題、研究概要、研究成果、研究代表者名が WEB ページ上で公開されることに同意します

(次のページに続きます)

研究成果写真：

(研究過程がわかる写真や、研究結果がわかる写真などを数点貼り付けてください)

